

(別刷)

## 観光まちづくりの手法と地域活性化への効果

—— 生涯学習の視点から「観光まちづくり」を考える ——

福留 強

生涯学習研究

— 聖徳大学生涯学習研究所紀要 —

第9号 別刷

2011年3月

# 観光まちづくりの手法と地域活性化への効果

—生涯学習の視点から「観光まちづくり」を考える—

福留 強

## 1. 問題の背景と目的（本テーマの背景）

これからの日本は経済振興の柱として、観光立国の推進があげられている。国内外の観光による交流を活発化させることにより地域の活性化をはかろうとするものである。しかし観光は、言うまでもなく観光業者が行うものではなく広く市民がかかわるものである。

こうした中で近年、いわゆる「まちづくり」と同様に「観光まちづくり」というキーワードがみられるようになった。「観光まちづくり」は、明確な定義はないが、現在の観光立国のなかで大きな役割を期待されている。「観光まちづくり」は、「観光」と「まちづくり」を融合させている用語であるが、その内容に共通理解される明確なものはない。

そこで、本論では、「観光まちづくり」の背景と、内容を整理するとともに、めざす方向を明確化して、具体的な展開の方策を考えようとするものである。具体的には次の課題を検討する。

- ①観光は市民の総合的な学習であるともいえる。実際は観光業者を中心とする狭い領域で行われている。今後の観光振興の取組みとしては、あらゆる領域の「観光」を考える必要がある。また、それは生涯学習まちづくりの一部として存在していることを確認する。
- ②そのためには、「観光」を市民の生涯学習に位置づけることが有効である。
- ③「観光まちづくり」は、取組みとして、生涯学習まちづくりの考え方、手法が同様であり、いわば「生涯学習まちづくり」と同義語であるともいえる。
- ④生涯学習のまちづくりの手法として、観光まちづくりの手法も同様である。より具体的で効果のある観光まちづくりの手法を考える必要がある。

## 2. 観光まちづくりの意義

### (1) 観光まちづくりの背景

今日の豊かな社会の中で価値観の多様化が進み、様々な

ライフスタイルを求める個性の時代となった。高齢化社会の到来は、余暇時間を大量に持つ人口の増大をもたらした。国民も余暇を重視するようになり、生きがいや癒しへの希求が高まってきた。そのため観光レクリエーション活動への期待は大きくなっている。

観光経験が豊富になり、成熟化し個性化した市民が多くなると、従来のマストツーリズムに満足することが少なくなってきた。団体旅行の規模や内容も変化し、個人やグループでの旅行が増加し、観光行動やニーズの多様化への対応が求められる時代となっている。そして、従来の周遊型観光に変わり、時間をかけて地域の自然や文化に親しむ参加体験型観光プログラムへの関心が高まっている。<sup>1)</sup>

そして、一つの観光資源だけではなく、地域全体を味わえ、まちを楽しみ観光が増えているのである。これまでは観光施設も地域も観光客を囲い込むようにしてきたが、今後は地域全体がそれぞれの個性ある魅力づくりを行い、それらを連携することで互いに補いあい、多様化する観光客へ対応することが求められている。

### (2) 観光とは

「観光」は、『易経』（中国五経の一つ）にある「観国之光、利用賓于王」（国の光を観るは、もって王に賓たるに利し）という言葉が語源だといわれている（「その地方の優れたもの、素晴らしいものを、その地方の代表者、権力者への賓客に、見せ、もてなしすることは良いことだ」という意）。「光を観る」とは、他国の優れた制度や文物を視察するという意味であり、輝かしい物事を仰ぎ見るといった心持ちを表している。「観る」とは、しめすという意味もあり、国の光を誇らしく示すということになる。国の「光」とは、自然の美しさ、歴史・文化、伝統芸能、産業、制度など、

1)「観光立国の実現に向けて」国土交通省観光庁資料、平成20年10月

あらゆる分野にまたがるものである。これらの光を、心をこめて、目に見えないものも含めて「観る」というのが本来の観光といえよう。

なお、観光 (tourism) には、WTO (世界観光機関) の定義により、帰省、出張、保養、巡礼などを含めている。<sup>2)</sup>

### (3) 観光の意義

さて観光について、まず旅行者の立場から考えてみる。旅行には、レクリエーション、健康保養、娯楽・休養、趣味、生きがい等々、人によって様々な目的や楽しみ方がある。これらの旅行には、以下のような教育的意義があると考えられている。

#### ①個人における観光(旅行)の教育的意義

ア. 旅行は、非日常的な未知の体験とともに知的欲求を刺激する

イ. 旅行は、直接的な体験の場であり、積極的な態度を養う

ウ. 旅行は、気分を転換してあすへの鋭気を養う

エ. 旅行は、交流の場であり、人々の相互理解を深める  
観光(旅行)が、全ての人々にとって有益であり、関わることは人々の成長につながることを期待できると考えられる。<sup>3)</sup>

#### ②地域における観光振興の意義

観光の振興には、まず住民が地域に対する関心や誇りを持つことが基本である。これはまちづくりにおいても同様である。

日本の観光地には、自然、環境景観、歴史遺産、温泉など、さまざまな態様があるが、そこには一定の共通項がある。その代表的なことは、これからの観光地は、地域の個性が輝いていることが最も重要であること、多くの観光客が訪れるまちが、ハードではなく「ソフトづくり」に成功しているまちであるということである。さらに、地域全体にもてなしの風土があることである。きわめて難しいことであるが、観光地にとって最も重要なことである。観光の「もてなし」のためには、個人の力を高めるとともに、組織全体、地域全体の力を総合的に高める必要がある。それは大きくまちづくりにつながるものでもある。

#### ③経済生活における意義

地域が観光を推進するのは、広義の観光の意義に着目していることはもちろん、直接的には、観光が、産業の柱として来訪者の支出を獲得するという点と、関連の業界に関して経済効果があるからである。観光の及ぼすさまざまな効果は、地域の人々の生活の分野や、宿泊、交通、飲食、小売などを含めて、あらゆる分野に波及する。地方自治体

の行政の取り組みは、道路整備から保健衛生に至るまで、この観光の経済効果を目指していることは、いうまでもない。

また、観光は、地域に根ざした産業活動を刺激することになる。例えば、飲食や土産品などはその生産に関わる第1次産業を支えることもある。さらに、定住人口の増加に効果を及ぼす雇用の促進などが期待できるであろう。

また、観光事業の発展は、関連企業の誘致などを促す。食品、交通機関、医療、衛生、警備、防災、さらに、街路整備、道路補修、上下水道などの生活基盤の整備・促進などにより幅広い分野で雇用機会の創出が期待される。このように、観光はあらゆる生活の部分に影響を及ぼしているのである。

#### ④国際社会にとっては

観光は、訪問者と受け入れ側が相互に「光」を観るという親密な関係が生みだす。世界はグローバル化社会の中で国際的視野の導入といった様々な共通の課題に直面している。それぞれの国のアイデンティティ形成が求められる時代であり、観光地づくりにおいても、国際観光に対応できる魅力を備える必要が強まっている。

#### ⑤観光は総合的な営み

なによりも観光に対応する「個人の高まり」は、生涯学習が基礎にあるものである。「観光」は総合的な営みであり、観光業者だけのものではなく、全ての市民の参画によるものであり、継続することが求められる。

持続可能な観光まちづくりには、自然環境の保全、上・下水道、交通対策、ユニバーサルデザイン、防災、法制度など、社会基盤の形成に関する様々な領域がからんでいる。

観光客を受け入れる地域の視点でとらえれば、それは受容力であり、変化力であり、サービス力であり、創造力を問われることなのである。

2)「WTO」《World Tourism Organization》…世界観光機関。観光分野における国際協力促進を目的とする国連専門機関。1975年設立。本部はマドリード。

わが国の旅行は、WTOの定義によって目的別に次のように6つに分類されている。

ア. 観光(狭義)：Leisure, Recreiation, and holidays

イ. 友人訪問・帰省：Visiting friends and relatives

ウ. 出張・義務：Business and professional

エ. 保養・療養：Heruth treatmento

オ. 宗教旅行・巡礼：Religion/pilgrimages

カ. その他：Others

この中で「ア」のように、これまで「物見遊山」として一般的に理解されてきた。

3) 福留強他編、「旅から学ぶ～観光教育のすすめ～」, 日本観光協会, 平成5年

「観光」を産業という視点で捉えれば、地域資源をそのまま利用することなくその地域資源に磨きをかけ、保持し、変化させ、最大の商品価値として商品化させるということになる。それだけに高度な受け入れの質（もてなし力）が求められる。これらの観光と観光まちづくりの関係を表わしたものが次の概念図（図1）である。<sup>4)</sup>

(4)観光の動向

わが国は、2003年7月に「観光立国宣言」をした。以来、国、都道府県、市町村においても経済活性化策の重要施策として観光振興が位置づけられるようになった。そして2008年10月には、国土交通省の外局として観光庁も発足して観光立国推進本部を設置し、観光をめぐる政策の推進が軌道に乗ってきた。『住んでよし、訪れてよしの国づくり』を観光立国の理念として、以下の4つの基本的施策を位置づけている。

- ①国際競争力の高い魅力ある観光地づくり
- ②観光産業の国際競争力の強化・観光の振興に寄与する人材の育成
- ③国際観光の振興
- ④観光旅行の促進のための環境の整備

こうした取組みのなか、2009年に日本を訪れた外国人は約679万人で、予想以上に減少していたが、政府は2016年までに年間2000万人を目指している（平成22年1月現在）。いずれにしてもこれからの日本は、観光が柱であることはいふまでもない。<sup>5)</sup>

(5)観光まちづくりの目的と効果

①観光まちづくりとは

「観光地づくり」という用語は昔からあったと思われる。「観光まちづくり」は比較的新しい用語で、「地域が主体となって、自然、文化歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を生かすことによって、交流を振興し、活力あるまちを実現させるための運動」をさしている。<sup>6)</sup>

なお、「観光まちづくり」の「まちづくり」とは、風光明媚なものや神社仏閣や産業遺産といった観光経営資源を、「まちづくりの手法」によってつなぎ融合し、統合することであり、より高い観光価値を創造することを意味している。<sup>7)</sup>

「観光まちづくり」とは、観光振興の重要性から、まちづくりの基本を、観光にウェイトを置こうとするものである。旧来型の均一化した観光地づくりから脱却し、地域に根ざし地域の個性を十分に活用した「観光」を重視したまちづくりのことである。

4) 安島博幸監修，国土総合研究機構観光まちづくり研究会編，『観光まちづくりのエンジニアリング』，学芸出版社，平成21年，p.17  
 5) 「観光立国の実現に向けて」国土交通省観光庁資料，平成20年10月  
 6) 国土交通省総合政策局観光部監修，『新たな観光まちづくりの挑戦』，ぎょうせい，平成14年7月  
 平成12年12月，観光政策審議会答申「21世紀初頭における観光振興方策」の中で主要施策の柱としてかかげられた。  
 7) 国土交通省総合政策局観光部編，『新たな観光まちづくりの挑戦』，ぎょうせい，平成14年7月

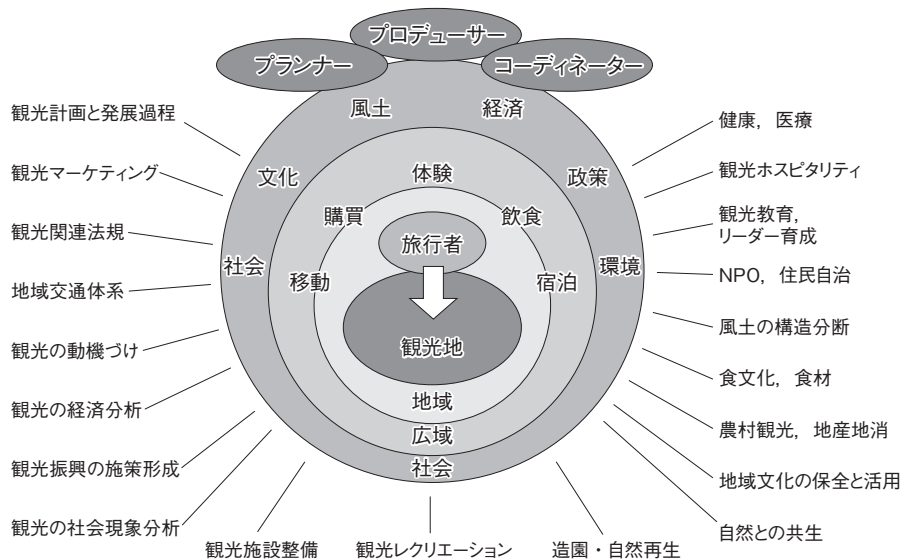


図1 観光まちづくりの概念図

## ②観光まちづくりの考え方

「観光まちづくり」には、まちづくりが観光にまで至ったという側面と、観光がまちづくりまで広がってきたという側面がある。「まちづくりの基本」は生活基盤としての「まち」であり、まちに住む生活者である。まちは単なる観光地ではなく、ましてや観光業者が組み立てる「商品」ではないのである。つまり、観光まちづくりは、ある意味では観光業者が主導する従来型の観光地整備や観光商品開発とは一線を画すものである。地域の市民の生活に根ざす日常的な、まちづくりの努力といってもよいものである。<sup>8)</sup>

## ③観光まちづくりの目的

まちに旅行者を受け入れ、交流人口を増やすことで活力あるまちづくりを推進することが「観光まちづくり」である。具体的に、それは市民が日常的に「もてなしの風土」を築くことである。訪れる人々が魅力を感じるようなまちは、住民が誇りをもてるまちでもある。これこそ「観光まちづくり」の「もてなしの風土」を創ることといってもよいだろう。そして、「観光まちづくり」は、何世代にもわたり知恵と工夫を重ねて創り出すもので、継続することが重要である。

## ④観光まちづくりの効果

こうした「観光まちづくり」は、まちや人々に以下のような効果をもたらすことが知られている。

- ア. 観光関連産業の成立 旅館業、飲食業、土産物産業などが成立する
- イ. 雇用の増大 観光関連産業での雇用が増大する
- ウ. 高齢化への歯止め 若年雇用が進めば高齢化に歯止め
- エ. 地域産業への波及 地元食材の利用などによる農林水産業への効果
- オ. 自治体財政の健全化 観光関連産業からの税収アップ
- カ. 住民の意識向上 外から見た地域の魅力の再発見
- キ. 住民の地域愛が向上<sup>9)</sup>

また、観光まちづくりを推進することによって、地域資源の見直しが進むとともに、その保全と有効な利活用が図られることも考えられる。

## ⑤観光地に共通する点

小布施、高山、長浜、知覧、湯布院、遠野など、小京都と呼ばれるまちや地方の小都市の人气が高まっている。歴史や文化、自然が感じられる個性ある街並みや美しい風景が残されていることもあるが、それ以上にまちが、全体として住みやすく、住民の人情が感じられ、まち自体も個性を感じさせているからである。観光客の好みに合わせた

テーマパークではなくて、本来のまちの個性を見出し、磨き光らせることによって、訪問客（旅行者）にとっても住民にとってもいいまちになっているのである。

観光まちづくりの、「観光」は、「まちづくりの結果」の一つの現れである。それは、まちづくりの仕上がりのプロセスを意味しており、終わりではないのである。<sup>10)</sup>

## 3. 観光まちづくりの具体的な手法

「観光まちづくり」のための具体的な手法として、観光に関して人々の基本的な行動や意識を調査し、確認することからはじまる。そして、まず、まちの目標を定め共通理解を図らなければならない。「観光」は、人々にとって何が望まれているのか。観光地に対する人々のニーズは何かを、まず把握する。それぞれの旅行に対する希望は多様であり、複合的になっている。例えば、観光に関して「審美ニーズ」、「文化教養ニーズ」、「自己表現のニーズ」、「スポーツ」、「交流」、「自然探訪」など人々は様々な興味を持っているのである。重点のおき方で旅はさまざまな内容になる。これらに対して、受け入れ側（観光地）どのような対応が必要か。この場合、対応とは、一つは行政の対応であり行政施策である。もう一つは、地域に定着している「もてなし力」と言い換えても良いものである。

### (1)観光の基本的な方法

「21世紀初頭における観光振興方策～観光振興を国づくりの柱に～」答申では、観光政策審議会の、経済社会の環境の変化の中で、観光の意義と現状・課題を指摘している。これによると基本的視点として

- ① 21世紀初頭における観光振興を考える視点として、誰もが「気軽」に楽しめる観光、住民と旅人が互いに交流しあう観光、自然・社会環境と共生する観光を振興していく必要があるとしている。
- ② さらに、早急に検討し取り組むべき課題として以下のような提言がされている。
  - ア. そぞろ歩きのできる個性ある観光まちづくり、そのための広域の市町村連携
  - イ. 観光分野におけるITの積極的な活用

8)「21世紀初頭における観光振興方策～観光振興を国づくりの柱に～」観光政策審議会答申第45号、平成12年12月

9)安島博幸監修、国土総合研究機構観光まちづくり研究会編、『観光まちづくりのエンジニアリング』、学芸出版社、平成21年、p.144

10)国土交通省総合政策局観光部監修、『新たな観光まちづくりの挑戦』ぎょうせい、平成14年7月

- ウ. 観光バリアフリー化による高齢者等が旅行しやすい環境づくり
- エ. 外客の多様なニーズへの対応 訪日旅行者の促進のための戦略的な取組み
- オ. マナーやホスピタリティに関する国民全体の意識喚起
- カ. 長期滞在型旅行環境の整備及び長期滞在型旅行商品の開発等, 連続休暇の拡大・普及促進と長期滞在型の普及<sup>11)</sup>

これらは観光に関して国の施策の方向であり, 自治体の施策の柱になっている。

(2)観光まちづくりの方法

①観光まちづくりの基本

「観光まちづくり」は, 地域住民・地域資源・来訪者の調和ある発展にかかっている。その実現のために地域住民・地域資源・来訪者それぞれが地域社会を中心に考えることから始めるべきである。そして地域のリーダーが生まれる仕組みづくり, 「地域住民・地域資源・来訪者」の持続可能な, まちづくりとそれぞれを調和させる仕組みが必要である。

なお, 観光面から地域全体のことを将来にわたって考えることが「観光まちづくり」の基本である。具体的には「観

11)「21世紀初頭における観光振興方策～観光振興を国づくりの柱に～」観光政策審議会答申第45号, 平成12年12月  
 12)山口喜久男, 『全国アメニティ・ストリート完全研究』東済経済新報社, p.36を参考に作成

表1 観光地におけるニーズと「もてなし機能」の関連<sup>12)</sup>

観光地におけるニーズ	観光ニーズに必要な「もてなし」機能	具体的な方策, 方法
①美しいものを訪ねる (審美ニーズ) 景観探訪 世界遺産などを訪ねる	美しい自然環境, 芸術文化鑑賞, 博物館・美術館, 美しい夜景, 美しい街並み・建物の基準など	建築基準と協定, まちづくり協定条例, 博物館・美術館の整備 センスのあるストリートファニチュア, 美しい街並み
②文化・教養のニーズ	文化・鑑賞・表現・研修講座, まつりの鑑賞, 伝統文化鑑賞や体験	展示場, 公会堂, ホール, 文化センター, 多目的広場, 研修会開催
③創造・自己表現の楽しみ	創造・発表の機会, コンテストの開催, 展示機能, 野外劇場	スケッチ, 写真コンテストなどのイベント, 発表会開催
④ふれあい・情報交流ニーズ	情報交換, コミュニティ活動への参加	研究交流会, 案内板, タウン誌, プレイガイド, 縁日, 祭り, 交流会の開催
⑤スポーツ健康	スポーツ施設, 野外活動施設, レクリエーション, 健康教室, スポーツ健康の啓発機能	スポーツ大会, スポーツ施設の開放, 温泉プール, 遊園地など
⑥安らぎ・自然探訪の楽しみ	安らぎ, 自然探訪, 散歩探訪, レクリエーション, 霊園公園, 花いっぱい, 花見観賞	温泉, 自然遊歩道, 広場, 噴水, 人工の小川, 緑地, 樹木, 休養林 歩行者天国, ベンチ, 休憩所
⑦ファッション・流行体験	見る, 身に着ける, ファッションにより自己表現, フェスティバル	ショールーム, 催事場, 景観良い道, ファッション道路, 着物の日等
⑧社交, 交流, 公務, 研修等	結婚式, 法事, 祝賀会, 同窓会, 学会, 交流イベント等	ホテル, 会館, 貸会議場, 結婚式場, パーティー開設, 酒場
⑨エロスのニーズ ギャンブル	バー, キャバレー, 深夜スタジオ, パチンコ, 場外馬券売り場, 競輪, 競馬, 競艇	(これまで, 観光地には多く教育的環境としては問題視されている)
⑩飲食・ショッピング	食べる, 飲む, 買う, 眺める, 探す, まち歩き, ショッピング	デパート, 専門店, ショッピングセンター, 市場, バザール, 買い物広場

光ニーズに必要な『もてなし』機能」を充実することがその内容である。

## ②観光客のニーズに対応する様々な機能

観光地における人々のニーズは多様であり、それらに対応する「もてなしの機能」もあらゆる側面が考えられる。その全体的なものとして次のような項目を挙げることができる。

- ア. 美しい環境づくり
- イ. 芸術文化など感動の場面づくり
- ウ. 文化的な側面に関した生涯学習の機会の充実
- エ. 自己表現できる機会
- オ. まつりや地域イベントなどの開催
- カ. スポーツ, 健康, レクリエーションの機会の充実
- キ. 日常生活のなかでの行事, 交流イベント等の開催
- ク. 飲食, ショッピング等の魅力づくりなど

これらは『観光まちづくり』における主要な手法ということができる。

## ③市民の活動としての方法「もてなし」と具体的な方策

観光まちづくりには、ハードもソフトも含む総合的な活動であるが、市民として幅広く参画を求められる活動が少なくない。そこでこれらの関連を、前ページの表1のようにまとめてみた。観光地におけるニーズに対して、必要な「もてなし機能」と、さらにそのために効果をあげられると思われる具体的な方策を列挙したものである。

各項目は、キーワードのみを表記した。「⑨エロスのニーズ・ギャンプル」については、いわゆる風俗歓楽街の傾向があり、男性たちの歓楽街といった古い観光地のイメージが残る。当然、風紀上好ましくない環境になりがちである。しかし、観光地における人々のニーズは、単一にあるわけではなく、複合的なものになっている。

## 4. 観光まちづくりの現状と課題

### (1)観光まちづくりの担い手

観光行政に携わるスタッフはもちろんのこと、まちをあげて「もてなしの風土」を創ることが、観光まちづくりの第一歩である。そのために特に期待されるのは観光まちづくりに関わるボランティアの活動である。観光立国を謳っているわが国は、ホテル、旅館等でサービスの第一線で働く人、バスやタクシー等の交通機関等で働く人、観光施設で働く人は、もちろんあらゆる分野の人々がもてなしの力を発揮することが求められる。なかでもガイドボランティアは、街の歴史や文化遺産を案内するだけでなく観光客のニーズに臨機応変に対応できる力量を発揮する必要がある。

さらに、「旅のもてなしプロデューサー」, 「まちづくりコーディネーター」, 「地域アニメーター」など、まちづくりの現場で活動する人々が、これからの観光まちづくりの主要な役割を果たすことが期待される。そのためにも、観光の担い手が、より幅広い領域について知識を有していることが求められる。もちろん、そのためには体系的、継続的な研修が不可欠である。<sup>13)</sup>

### (2)観光まちづくりの様々な形態

「観光まちづくり」は、総合的なものではあるが、重点のおき方によっては様々な形態の観光が推進される。現在各地で展開されている中で、ニューツーリズムと呼ばれる次のような観光が注目されている。

#### ①産業観光

歴史的文化的価値のある産業遺産, 先端技術を誇る工場, 伝統工芸の工房などを訪れる観光。文化庁は、重要文化財として「近代化遺産」部門を新設した。

宮崎県綾町は、「産業観光」のまちづくりに取り組み、「住みよいまちを作ることが優れた観光地になる」という考えで、自然環境の保全と産業振興のバランスをとれたまちづくりを実践している。例えば、照葉樹林という自然の恵みを活かし、その独自の文化を継承し、伝統工芸品制作による「手づくりの里」を展開しており、全国各地から若手工芸家が参集し、定住するなど、交流により活性化を図っている。

#### ②人間観光

まちを訪ねて歴史上の人物のゆかりの地を訪ねるとか、地域の偉人、有名人に出会うことも旅の大きな楽しみである。地域が生み出した「人間」という資源価値で、これはまちの風景や、温泉などの地域資源を上回る価値を持っていると考えることもできる。

また、地域で活躍する人々に出会うことも旅の楽しみである。さらに旅先で、新しい自分に気付くこともある。景色や、温泉などでなく「ソフト」が魅力の旅もある。これは人間との交流が目的となるものである。そのために特別にイベントはしなくても人が訪れるまちといっても良い。「坂本龍馬のゆかりの地」や、現代の「子ほめ条例のまち」などは、その意味では人間観光ともいえよう。

#### ③生活観光

従来の観光は、東京ディズニーランドに見るように、非日常体験を楽しむことが主流であった。最近では日常生活

13) 福留強, 『まちづくりボランティア』, ブックハウスジャパン, 平成13年9月

のすばらしさを味わう楽しみが人気をよんでいる。歴史のある暮らしの奥深さや住まいの美しさ、平凡な生活の中に存在する文化や伝統などを観るもの、また普段の姿でもてなしの力を育てる地域の高まりなどを期待する観光である。このように今、観光まちづくりの潮流は、生活観光に向かっていると思われる。

#### ④芸術観光

観光の最大の感動は、文化遺産に出会えるということもある。ヨーロッパの観光の多くは芸術文化に触れることであろう。パリ、ローマ、フィレンツェなどを訪ねる観光は、芸術文化に触れる旅といっても良いであろう。わが国は世界的にもっとも博物館や芸術文化ホールの多い国といわれている。したがって、芸術観光の振興には、もっとも可能性が高いと考えられる。

#### ⑤医療観光

医療の国際化を迎え、高い技術や医療費の安さを求めて海外の医療機関を受診するツーリズム「医療観光」がアジアを中心に広がりつつある。日本でも受け入れを模索する病院や自治体が目だって増えている。

#### ⑥エコツーリズム

自然環境資源を保持しながら、風景の鑑賞や野生の動植物の観察など、自然に親しむ、自然から学ぶことを楽しむ観光である。「環境と調和した観光」を目指し、その経済社会的効果を生むことによって地域振興につなげてゆくというものである。<sup>14)</sup>

#### ⑦グリーンツーリズム

自然体験や農業体験などを組み合わせた滞在型の観光で、教育面だけでなく都市と農村との交流による交流人口の拡大などに効果をあげている。過疎地の活性化方策として効果をあげている例が多い。

#### ⑧ワインツーリズム

ワインの産地を散策しながら、自然や地元の酒・料理を味わう観光で、山梨県甲州市などにその活動の活発な事例が見られる。

#### ⑨生涯学習観光

生涯学習宣言都市など学習活動を目玉にしたまちづくり。市民大学、子ほめ条例のまちなど多くの人々が訪れるようになっているまち。いわば生涯学習観光とでも呼べるようである。

#### ⑩小村観光

人口1万にも満たない小さな村の、村おこしを中心とした様々な仕掛けを売り物にした観光。過疎地でありながらさまざまな工夫で克服しているまちが多い。

#### ⑪スポーツ健康観光（ヘルスツーリズム）

スポーツレクリエーションを目的とした観光である。ゴルフ、マリンスポーツ、スキーなどを目的とした観光が考えられる。まちづくりの視点では、プロ野球やサッカーなどのキャンプ地などもまちづくり手法といえる。

#### ⑫その他の観光、フィルムツーリズムなど

テレビや映画ドラマの人気にあやかってロケ地めぐり観光がブームになっている。そのためにロケを誘致し、観光客を増やそうと企図する自治体も増えている。

## 5. 生涯学習としての市民の観光への取組み

### (1)地域の「光」に関わる様々な手段

「観光地」は、「温泉地」という概念が定着しているが、それらがなければ観光地ではないということはない。冒頭に述べた通り「観光は国の光を、心をこめてみせる。誇らしく示すこと」であり、日常生活を誇らしく示せるように高めることでもある。したがって、市民の「観光に関わる場面」はかぎりなく広い。これからの観光地は、地域のハード、ソフトなどすべてに個性が輝いていることが最も重要である。

地域の「光」に関わる様々な手段として、市民による地域資源について次のような5つの活動が考えられる。これらの活動は、まちづくりにおいては地域の実態を把握するために最も一般的で初歩的な活動であり、子どもから高齢者に至るまで、誰でも関われるということに特色がある。さらに、多くの観光客が訪れるまちは、「ソフトづくり」に成功しているまちが多いということも共通している。

#### ①探す活動 観光資源を探すこと

地域の特色が、観光まちづくりのセールスポイントとなる。自然、環境景観、歴史遺産、温泉など、日本の観光地には、これらをうまく活用しているという共通項がある。地域資源を探す活動は、市民の学習活動としても、世代を超えて多様な展開例がある。歴史発見、地域のマップづくり、人物発見など、具体的な活動としてはきわめて初期的な、基本的な活動である。

#### ②調べる活動 地域資源を調べること

資源については、観光の視点から、自然的観光資源と社会的・歴史的観光資源に分類する例が多い。日本アルプスや屋久島を訪問するような大自然を満喫する観光と、奈良や京都、鎌倉など歴史的な資源を訪ねる観光もある。観光資源は、観光対象とするものに限定されがちであるが、広義の観光では、生活資源を含むものである。

14)前田勇「観光と環境」(『現代観光総論』),学文社,平成7年, p.79



表2は、「観光資源分類の例」としてまとめたものである。

表2 観光資源分類の例<sup>15)</sup>

資源分類	内 容
自然的資源	(1)天然資源 ①風景 ②温泉 ③動植物・野生生物 (2)天然現象 ①気候・風土 ②気象 ③自然現象 ④天体観測
文化的(人文的)資源	(1)有形文化財 (2)無形文化財 (3)民俗文化財 (4)史跡 (5)名勝 (6)天然記念物 (7)伝統的建造物群 (8)歴史的風土 (9)風土記の丘 (10)歴史的港湾環境
社会的資源	(1)有形社会資源 ①都市 ②都市公園 ③教育・社会・文化施設 ④テーマパーク等 (2)無形社会資源 ①人情・風俗・民話・行事等 ②国民性・民族性 ③衣食住・生活 ④芸術・芸道・芸能・スポーツ
産業的資源	(1)工場施設 (2)観光農林業 (3)観光牧場 (4)観光漁業 (5)展示施設

### ③推理する活動

地域資源について、その成り立ちや過去未来を推理することも必要である。これらの活動は、過去を知り新たな展開のために、また地域資源を推定し、その目標を達成する計画を考えるためにも必要である。

### ④整理する活動

地域を観察し、あらゆる情報を整理して、体系化したり特色を強調するなど、多くの情報をまとめた結果、新たな事柄を発見することがある。「名瀬市なぜキョラ塾」が、奄美大島のつむぎに関するデータを整理し、マップを作成する過程で新しい事実を発見するなど、まちづくりに影響したことがあった。

⑤創造する活動 地域に光が見当たらなければ、地域の宝を創造する。

雪だけは多いというまちが、「雪合戦発祥の地」を全国に先駆けて名乗り、イベントを実施して既成事実をつくった例がある。上記の①～④までの成果として、地域の「宝」が生まれる例も少なくない。

これらの5つの項目は、いずれも市民の「まちづくりに関する学習活動」と基本的には同一のものである。また、これらの「観光」に関する学習活動は、学校教育や社会教

育の場面で、学習テーマ、教材としても効果的な学習課題になりうるもので、プログラム化することも必要である。

なお、「観光」に市民が総合的に取り組む「観光とまちづくり」の学習は、小学校の授業として展開している例も広がっている。まさに、観光まちづくりの推進は、「まちの光探し」の部分から学習を深めることが必要で、そこから始まるといっても良いものである。そのことが、地域を知り、地域を愛する、より良い市民づくりに資することに大きな効果が期待されるのである。

## (2)観光に対する市民の取組み

### ①観光は総合的な営み

わが国が観光立国を宣言し、海外からの観光客を招き、経済の活性化を図るという政策は当然といってもいいが、基本的に観光を経済の立場からだけで振興するのは、きわめて短絡的過ぎると思われる。観光は、特定の観光業者等だけでなく全ての人々にとって有益であり、観光に関することは、あらゆる学習活動を伴うことから、人々の成長につながることを期待できると考えられる。

観光の「もてなし」のためには、個人の力を高めるとともに、組織全体、地域全体の力を総合的に高める必要がある。それは大きく、まちづくりにつながるものでもある。これはいわば、「もてなし力」ともいってもよい。なによりも「個人の高まり」は、生涯学習が基礎にあるものである。観光は総合的な営みであり、全ての市民の参画によるものなのである。

### ②生涯学習まちづくりとの関わり

観光まちづくりの活動は「生涯学習まちづくり」に含まれる活動である。

「生涯学習社会にふさわしいまちづくり」の視点として、ア. 時代の変化に対応した学習機会を整備する。イ. 自発的な学習活動を活性化し、それが社会生活の中で活用される環境づくりを進める。ウ. 教育・研究・文化・スポーツ施設と地域社会との連携・協力をすすめる。エ. 多様な学習活動を支える社会生活基盤の整備を図る、ことがあげられる。そのために、人々の生活にあわせて、教育・研究・文化・スポーツ施設を本格的に整備するとともに、美しい生活空間、学習に便利な公共交通体系など、関連する施設やサービスを整備し、学習しやすい学習援助体制の整備をおこなう。<sup>16)</sup>

地域住民の学習活動、芸術文化活動、スポーツ活動等を

15) 足場洋保、『観光資源論』、中央経済社、平成9年

16) 福留強、『生涯学習まちづくりの方法』、日常出版、p.36

活性化し、住民の地域社会への参加を促していくことは、地域の豊かな人間関係の形成、地域の活性化に役立ち、生き生きとした地域コミュニティの基盤形成を促進するものである。これらは生涯学習まちづくりをあらわしているものである。

③地域資源に関する市民の学習活動

次に、市民の活動を、地域資源に限定して（ハード事業を除く）「観光まちづくり」と「生涯学習まちづくり」について関連するキーワードを列挙してみる。いずれも地域に関わる活動である。そこで、実際に「地域資源に関する学習活動」として、対比してみると、2つのまちづくりは、ほぼ同じ活動を要するものであることがわかる。2つのまちづくりは、いずれも「地域の魅力づくり」「人材の養成・活用」などを通じた地域の活性化は、共通した目標であり活動である。<sup>17)</sup>

④「観光」はまちづくりの中心的な課題

「観光まちづくり」の推進にとって、最も基本になるものは、「もてなし力」の醸成である。そのためには、市民が自らを高めるための学習し、市民性を高める生涯学習が前提にある。その意味では、市民の学習から始まって「何もないところから創り上げる」という市民活動が期待されるのである。近年、鹿児島県隼人町「嘉例川駅」<sup>17)</sup>の取り組みや、「日本人は魚を食え in 東京タワー」を実践した佐伯市のイベントなどは、生涯学習の推進から観光の効果をあげた例である。<sup>18)</sup>

⑤「生涯学習まちづくり」と「観光まちづくり」の活動内容

次に「生涯学習まちづくり」と「観光まちづくり」について、それぞれの施策・活動の主な要素を列挙してみる。それらの項目に2つのまちづくりは、現場でいかなるキーワードが考えられるのかを、表4に列挙してみた。2つの対比からみると、ほぼ同様なことが行われているということが認識される。

まとめ

施策例から2つのまちづくりを対比してみると、次のような視点が明らかにされる。

- ①まちづくりの目標については、人々の生活の向上と、個人の人間形成・向上は、共通している。「観光まちづくり」は、最終的には「観光」が主であり経済の活性化が強調されているものである。
- ②観光は、最終的には経済的な効果が重視される。生涯学

17) 福留強「生涯学習まちづくりの推進方策に関する考察～市民活動を促進するための、行政による効果的支援の取り組み」、聖徳大学生涯学習研究所紀要「生涯学習研究第7号」、平成21年3月  
 18) 大分県佐伯市漁業従事者を中心に、佐伯市の観光、漁業の振興、寿司のまち振興などを目指して、平成22年11月21日東京タワーにおいて「日本人は魚を食え in 東京タワー」を開催し、話題を呼んだ。きっかけはリーダーたちの学習からであった。

表3 地域資源に関する市民の学習活動

	観光まちづくり	生涯学習まちづくり	事例等
目的	観光をまちづくりの中心とする施策。市民運動推進により観光振興を図る。地域の魅力と、もてなし力づくりで観光の振興を図る。	まち全体が生涯学習できる環境をつくる。生涯学習の振興により地域の魅力を創り人間形成とコミュニティ形成・地域活性化を図る。	人材の養成活用、地域の魅力づくりと活性化は共通
①探す	地域資源（観光資源）を調査する。地域の「宝（魅力）さがし」の学習	地域資源を調査する（人材、教材）地域の「宝さがし」の学習	マップづくり
②調べる	地域実態の把握調査（環境景観資源）市民の動向、観光客の嗜好調査観光地の環境容量	地域実態の把握調査 他の事象との関連を調査 地域資源の活用方策の調査	意識調査等
③推理する	地域資源に関する起源、原因、背景などについて推理 将来予測等推理	地域資源に関する起源、原因、背景などについて推理 将来予測	研究会
④整理する	地域の資源を整理し活用を促進する。地域資源を整理分類したり、解説したりする。 関連資源のネットワーク	地域の資源を整理し活用を促進する地域資源を整理分類し解説する。関連資源のネットワークを構築	解説資料作成
⑤創造する	地域資源がなければ、新しい分野を創造し定着させる。 名所、名産、名物などを創る。	地域資源がなければ、新しい分野を創造し定着させる。 名所、名産、名物、名人等養成	イベントの蓄積、名所、名物、名産、名所など

表4 「生涯学習まちづくり」と「観光まちづくり」の活動内容と施策例

	生涯学習まちづくり	観光まちづくり
目的 施策・活動野例	・学習を通じて地域コミュニティの形成と活性化 ・自己の充実・啓発と生活の向上	・人々の交流・観光を通じて地域の見直しと、もてなし力と経済の活性化 ・自己の充実・啓発と生活の向上
地域資源	地域資源の発見と学習 学習資源として活用	地域資源の発見と学習 観光資源として活用
地域全体のもてなし機能の醸成	市民道徳 市民性の向上	もてなしに関する研修 市民道徳 もてなしの視点で環境を見直す
施設（ハード）の整備	学習施設の整備（公民館，図書館，博物館，生涯学習センター等）	宿泊施設（ホテル・旅館・民宿等）・都市施設の整備
学習機会の整備	まちづくり市民大学等の開設	もてなしに関する研修会 地域のガイドに関する研究・研修
人的体制の整備	まちづくりボランティア（地域アニメーター，まちづくりコーディネーター）養成，推進組織の設置	ガイドボランティアの養成 旅のもてなしプロデューサー 旅程管理主任者等
美しい環境づくり	花いっぱい運動，環境美化などは市民活動の主要な分野である	街並み，清潔な生活空間づくり
情報提供・相談	学習情報の提供相談 地域ガイド等に関する研修，活動	情報センター・観光ビューロー 観光ガイドブック，パンフレット作成
飲食サービス	特産品の開発・研究 もてなしとして飲食等の研究研修	特産品の開発，サービスの研究・実践
交通基盤の整備	安全で美しい道路など市民ボランティア活動の充実	交通基盤の整備，サービスの向上
土産特産品づくり	特産品の研究・開発（学習）	特産品の研究・開発（学習），販売

習は、そのための研究や姿勢さらに環境醸成のための市民運動など、内容・方法の研修に重点が考えられる。いわば総合的なもてなし力の向上を目指す市民運動が、具体的な展開になると思われる。

- ③観光の推進は、実際は観光業者を中心とする狭い領域で行われている。しかし基礎になる地域資源の利活用や、地域のもてなしなどは、市民による総合的な学習が不可欠である。
- ④今後の観光立国の取組みとしては、あらゆる領域の観光を振興させる必要がある。これは個人のもてなし力の向上はもとより、ホテル、サービス機関のもてなし力、まちをあげて、快適環境づくりなど、まち全体としてのもてなし力の向上など総合的な取組みを意味している。
- ⑤「観光まちづくり」は、「生涯学習まちづくり」の活動の一環として存在していることを確認する。そこで、そのためには、「観光」への取組みを市民の学習に位置づける

必要がある。それは市民の自主的な学習を通じて地域への参画を促進することになる。

- ⑥「観光まちづくり」は、取組みとして「生涯学習まちづくり」と同義語である。したがって、生涯学習まちづくりの考え方、手法が、観光まちづくりの手法として工夫改善して取り入れることを考える必要がある。さらにより具体的で効果のある手法を改善工夫していくことが必要である。
- ⑦今後の生涯学習の推進にあたって、「観光まちづくり」を重視することが、生涯学習振興にとっても効果があるといえる。